

審議会等の会議録

会議の名称	平成25年度 第1回座間市市民協働推進条例検討委員会		
開催日時	平成25年7月4日（木） 午後2時から4時まで		
開催場所	市役所3階 第1会議室		
出席者	小池秀司（委員長）、久住剛（副委員長）、長野基、西村弘、小野田順子 横谷光男、横田登美子、遠藤春海、市川智、小林智之、伊藤信裕		
事務局	市民部市民協働課（大矢担当課長、山本主幹兼係長、南山主査）		
公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開	傍聴人数	0 人
議題	条例制定に係る概要説明等について 他		
資料の名称	【資料】 ① 会議次第 ② 委員名簿 ③ 座間市市民協働推進条例検討委員会設置規則 ④ 協働まちづくり推進指針 ⑤ 協働まちづくり条例ハンドブック ⑥ 第4次座間市総合計画からの抜粋（第4章）		
会議の内容	◇次第 1 開会 2 部長あいさつ 3 委員紹介及び事務局職員紹介 4 委員長及び副委員長の選出 5 諮問について 6 議題 (1) 概要説明等について (2) 今後のスケジュールについて (3) 条例の構成について (4) その他 7 閉会		

<p>会議の内容 (会議次第及び 発言要旨等)</p>	<p>◇開会后、市民部長挨拶、事務局より新任委員と事務局職員の紹介がありました。</p> <p>◇委員長及び副委員長の選出について 各委員の互選により、委員長は小池委員、副委員長は久住委員が選出されました。</p> <p>◇諮問について 市民部長より、委員長に条例（案）の策定についての諮問書が手渡されました。</p> <p>◇議題 (1) 概要説明等について 事務局より協働まちづくり推進指針に基づき、条例づくりに至る経過等の説明があった後、委員長が学識経験者である久住委員と長野委員に、学識経験者の立場で協働推進条例の基本概念についての意見を求めました。 これを受けて久住委員と長野委員は以下の要旨について説明されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・久住委員より、協働の条例の形態の説明、条例制定過程におけるプロセスの重要性及び職員の参加についての説明がありました。 ・長野委員より、条例を制定する際の体系と条例制定過程における自治体全体の問題の洗い出しについての説明がありました。 <p>(2)今後のスケジュールについて 事務局より今後のスケジュールの説明がありました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・久住委員より、条例（案）について、答申後に行政がパブコメをかけるのではなく、委員会として市民に意見を聞くかどうかの質問があり、委員長より、委員会で市民に意見を聞く機会を設けることを見据えて、条例制定に係る作業を進めていければ・・・との提案があり、委員全員が了承しました。 <p>(3)条例の構成について ・委員長より、条例を作るにあたり、先ず検討すべき課題は何か学識経</p>
-------------------------------------	---

験者に諮ったところ、久住委員より、条例の組み立ての前に現行の指針での運用でどのような問題があるかを共有し、目標を定めていくために各委員の意見を聴取したらどうかとの提案がありました。

委員長が各委員に発言を求めたところ、以下のような意見が出されました。

- ・行政と市民の役割分担が不明で協働事業に対する認識の浅さを感じられる。対等なパートナーであることをしっかり示したほうがよい。

- ・自治会の意見を反映してはどうか。

- ・提案型協働事業に関して、プレゼンの上手下手だけに左右されないこと、審査基準を明確にすること、行政職員が納得した協働であることが必要。

- ・信頼関係があって、企画から実践まですべてを対等に行う志があることが重要。

- ・行政内でも協働に対する理解が進んでいないのではないか。パブコメを実施するには具体的な課題を提示する必要がある。

- ・パブコメに関しては、問題点を具体的に提示することが必要。協働に関しては、役割と責任と経費の分担を明確に定義付けしておく必要がある。

- ・受益者である市民への視点が欠けていたように感じられる。協働のパートナーは行政と市民活動団体だけでなく、企業などの主体ともかかわっていくことも重要。

- ・各委員の意見を受けて学識経験者が感想を述べた後、委員長より、各委員の意見に対する回答を考えておくようにと指示がありました。

(4)その他

- ・委員長が、ワーキンググループの設置について、職員を募るのに、構成人数や作業内容など、詳細の目途を事務局に依頼しました。

その後、久住委員にまとめの意見を求めました。

- ・久住委員より、ワーキンググループの意義が説明され、協働に対応していくには、行政の大きな変革が必要であること等が話されました。

- ・委員長は、以上をもって本日の議事を終了した旨を述べ、閉会を宣しました。